



研究プロジェクト名称：医学・生命科学・産業・地方自治体による健康長寿社会実現のための連携構築

研究プロジェクト代表者：医学医療系・教授・山縣 邦弘

研究プロジェクト計画の概要

本研究プロジェクトの目標は、平成19年より実施している厚生労働省戦略研究「腎疾患重症化予防のための戦略研究」かかりつけ医/非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する慢性腎臓病患者の重症化予防のための診療システムの有用性を検討する研究（以下 FROM-J）」（管理栄養士などの診療支援付加による教育介入の有無により全国49地区医師会をクラスターランダム化した前向き比較試験）の観察期間を延長すること（5年観察）で、比較的軽症の慢性腎臓病患者の大規模な前向き研究を完成させ、慢性疾患である慢性腎臓病の診療に関するエビデンスを世界にむけて発信することである。さらに、この研究を通して発展した地区医師会、栄養士会、薬剤師会、看護師などのコメディカルや行政との連携による健康教育を、Smart Wellness City 総合特区、つくば市・筑波大学・インテル社地域連携事業を活用しながら、新たな健康、医療支援、医療・地域・社会連携体制、在宅医療モデルの構築を目指す。すでにインテル社と共同で東日本大震災復興支援での伊達市に避難中の飯館住民の健康管理プロジェクトにおける遠隔血圧モニタリングの開発を進めている。すなわち、本研究プロジェクトは筑波大学の持つ医学・生命科学・体育、つくば市の実地医療・行政、産業といった官民一体の総合力により展開し、疾患の発症・進展メカニズムの解明、疾患による臓器機能不全に陥った患者の在宅医療の確立、医療支援にかかるコストの医療経済学的検討まで包含し、現実的かつ未来指向型の研究プロジェクトとして結実させ得るものである。

これらの研究を通して、患者のアウトカムを重視した臨床成果に直結する研究を展開し、本学の臨床研究体制の一掃の発展を期するものである。

医学・生命科学・産業・地方自治体による健康長寿社会実現のための連携構築

